



様式第8号(第5条関係)  
(その1)

平成29年9月27日

十和田市議会議長  
工藤正廣様

会派名 かけはし  
経理責任者 山端 博

平成29年度政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、  
別紙のとおり平成29年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

平成 29 年度 政務活動費収支報告書

会派名 かけはし

1 収 入

政務活動費 180,000 円

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費		
研修費	30,000	8/8~9 林活議員連盟 (盛岡市、登米市)
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合 計	30,000	

3 残 額 150,000 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

研 修 費

## 調査研究報告書

平成 29 年 8 月 8 日

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所

### 内容 多雪地帯の再造林コストを下げる

木材には A 材 B 材等の規格があり、これまで高品質材である A 材の生産を生産者は目指してきた。しかし新設住宅などで使用される主な材料として、高品質材の A 材は 2%、並材と呼ばれる B 材は全体の 98%とマーケットを占めている。

こうした木材確保のためには、当然再造林といわれる、森林のサイクルが必要ではあるが、近年、再造林放棄地が増えている。この理由としては、全国的に最大の理由として費用負担が挙げられている。

そんな中コンテナ苗という植栽の効率化を求めた苗が出回り始めている。苗自体のコストでは、スギ裸苗 152 円、カラマツ裸苗 89 円、コンテナ苗 220 円とコスト的には課題があるが、植栽本数 1 人 1 日当たり、スギ裸苗、カラマツ裸苗ともに 200 本に対し、コンテナ苗では 400 本と、倍の効率が見込めるようである。また、全時期を通してほぼ活着するというデータも出ている。

多雪地帯である東北地域の太平洋側に、並材(B材)を用途とする大型の合板工場がオープンしたようである。この並材生産には通常の半分ほどの 1 ha あたり 1500~2000 本程度の低密度植栽を研究所では進めている。コンテナ苗に関してはコストダウンの為の研究が日々行われているようであります。このコンテナ苗が森林所有者の再造林化への後押しとなり、また森林が防災的な機能を持つことから、コストダウンの発表に期待しております。



平成 29 年 8 月 9 日

登米町森林組合

内容 太陽熱木材乾燥庫を活用した里山文化の創造的再興

東日本大震災発生から 4 年以上が経過して、被災された方々が安定した生活基盤を取り戻す為には、一日でも早い住宅への居住が必要です。これに対応する為には被災地では災害公営住宅の建設が進められてきました。当然の事ではありますが、建設の為に材料となる木材をしっかりと乾燥する事が必要です。

そこで登米町森林組合では、木造災害公営住宅等に即応できる木材供給体制の構築を目的にした「太陽熱木材乾燥庫 ToSMS (トスムス)」を整備しました。この乾燥庫は従来の灯油等の化石燃料を使わずに、太陽熱を効率的に利用して大量の木材を乾燥しながらストックする事が出来といたします。これにより木造災害公営住宅等の建設に際して、高品質な地域材を安定して供給することが可能になります。また、太陽熱を利用して乾燥するエコなシステムは、これからの時代の木材生産において重要な役割を担うことになると思います。

